

# かけだしの頃

今だから話せるゲンバの失敗



五洋建設株式会社 東京土木支店 有明工事事務所

工事主任 **増田 裕之**

2002(平成14)年、五洋建設株式会社に入社。  
以来、護岸工事や橋脚補強工事、シールドトンネル工事を経験し、現在に至る。



## 作業手順書は安全・品質を守る重要な書類

入社4年目の26歳、防波堤・護岸設置工事の現場を担当していた時のことです。海洋土木は天候に大きく影響されるため、スケジュール調整が難しい現場でした。

ケーソンの上部工製作を担当していたのですが、私は鉄筋と型枠の出来形写真を撮影することで頭がいっぱいになっており、型枠組立の作業手順書の確認を疎かにし、現場状況の確認を職長任せにしていました。そんな状態でコンクリート打設に進みコンクリートを流し込んでいると、コンクリート用型枠を固定するセパが破断し、型枠がばれてしまったのです。

また、同現場で起重機船を使い、方塊ブロックの据え付けを行っている時の出来事です。施工会社が作成した作業手順書通りに進めていたところ、作業員が方塊ブロックと接触しそうになるヒヤリハットが発生しました。私は作業開始直後に作業手順に安全性の不備があると気づいていましたが、自分の判断で作業を中断する勇気を持てなかったのです。

失敗の原因を考えると、どちらも作業手順書の確認不足が大きく関わっていました。作業の「安全」や「品質」のポイントが書かれている作業手順書は、職員と作業員みんなの安全を守る極めて重要な書類です。いくらスケジュールがタイトであったとしても、作業内容の安全性

は確保されているか、品質向上のためにさらにできることはないかを、作業に携わる者全員と検討していかなければなりません。

これらの失敗を経験したことで、施工状況を自分の目で確かめることの重要性を痛感しました。施工状況を自分の頭できちんと理解できていないと、作業をどうやって進めていくべきかという判断ができません。作業手順書と現場は必ずしも一致しません。作業手順書の内容を逐一確認し、現場でも齟齬がないか自分の目で施工状況をチェックする。これが施工現場の安全性確保と、ひいてはお客様が求める「素晴らしい構造物」をつくることに繋がっていくのです。

私が技術者表彰を受賞した中央環状品川線シールドトンネル工事では、作業手順書の確認を徹底して行いました。そのほかでも評価いただいたのことでと思いますが、失敗から得られた経験が評価されたことは自信に繋がりましたね。

現在は工事主任として部下の教育も行いますが、作業手順書の内容確認がいかに重要かということのを常に意識するよう指導しています。後から修正すれば良いという考えで事故が起ってしまったてはどうしようもありません。作業手順書を見ながら作業員とコミュニケーションを取り、情報を共有する。細かい部分まで気にすることができるようになってほしいですね。